# オイル・ショックのマクロ経済学

加藤涼・平田英明

本稿では、2003 年以降の原油価格高騰のインパクトが、1970 年代のオイル・ショック時の経験と比べて、なぜ変化したように見えるのか、特にインフレ率や景気への波及度合いが、なぜ限定的なものに止まったのかという問題設定を念頭に、原油価格の変動が経済に与える影響について、現代的なマクロ経済学的な視点から整理・検証を行う。具体的には、日本経済あるいは先進諸国経済の実質賃金が伸縮化したこと、原油依存度が低下したことを中心に、波及を限定化させた要因として取り上げる。いずれの要因についても、理論モデルを用いて波及度を低下させる理由を示し、その実証的根拠を先行研究やデータを用いて検証していく。